

もっと知りたい

武者小路実篤

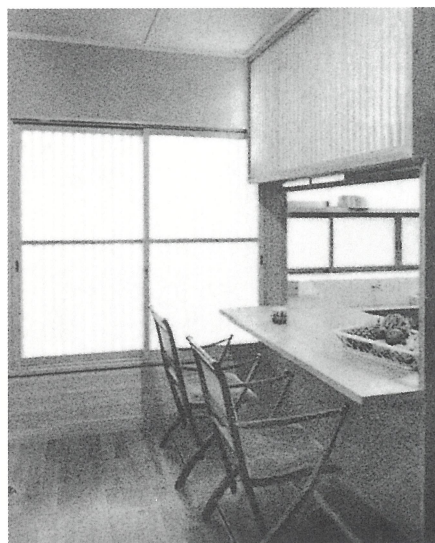
生活の場としての—— せんがわ 仙川の家

暮らしのための部屋



【居室】

寝起きし、食事をとり、テレビで相撲を観戦したり、訪ねてきた娘や孫とのひとときを楽しむ部屋でもありました。



【台所と食卓】

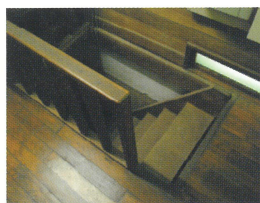
台所の横にあるカウンターテーブルで食事ができるよう作られましたが、実際には居室で食べていたといえます。

「新建築」第31巻第3号 昭和31(1956)年より



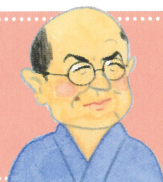
【浴室】

窓が多く、広いので、冷え込む冬は寒かったそうです。



【地下室】

階段を下りると物置として利用された小さな地下室があります。炭の束や、妻・安子の手作りの梅干しなどが置かれました。

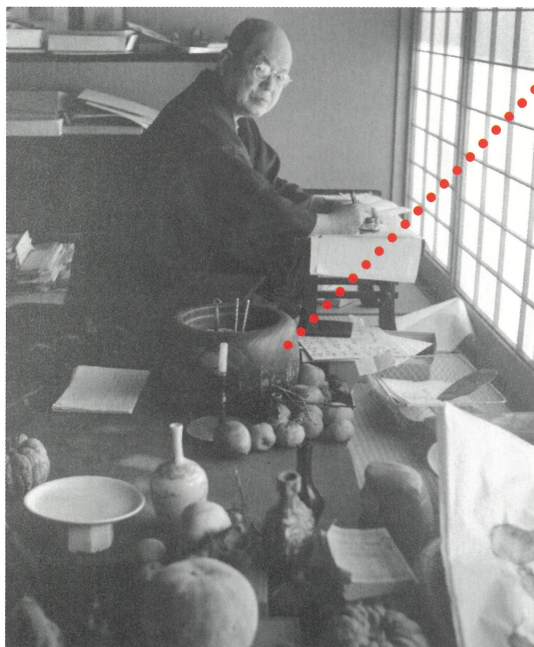


「調布に住むようになって、僕は初めて自分達の家に住んだ気がした。二人だけで住んだので、誰にも神経をつかう必要はなかった。僕達老夫婦にとって、この事は実に自然であった。」

「一人の男」二五二章 昭和46(1971)年より

■ちょっと昔の道具

実篤が仙川の家に暮らした昭和30(1955)年から51(1976)年頃は、身のまわりの道具が今とはすこし違いました。日々、夫婦が使っていた生活の道具を紹介しましょう。



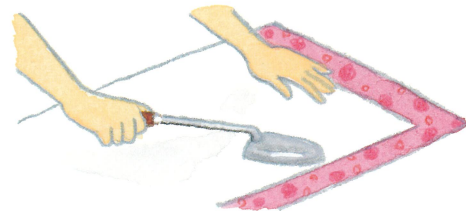
ひばち 【火鉢】

鉢の中に灰を入れ、その上に、火をつけた炭を置いて暖まります。「火箸」という金属でできた箸で炭を扱い、使わない時は灰に刺しておきました。



こて 【鑊】

「焼き鑊」とも言い、先を炭火で熱し、着物を縫う時、布に折り目や印をつけるなど小さなアイロンのように使いました。



あまど 【雨戸】

今は金属が多くなったあまどですが、当時はほとんどが木製でした。実篤は、朝起きると自分であまどを開け、仕事に取りかかりました。



こめびつ 【米櫃】

米を保存する入れ物で、下の口に蓋がついていて、米を出したい時は蓋を上げ、下げると止まる仕組みです。仙川家のこめびつは、しよつきだな(食器棚)に収納できるのが特徴です。

